

医療機関アンケート集計結果等について【中濃圏域版】

平成30年8月に実施した「医療機関アンケート」の回答があった医療機関を一覧にしています。

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① [H29年度病床機能報告結果]					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟等）	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟・廃止等）	合計	高度急性期	急性期		回復期	慢性期	その他（休棟等）
1	郡上市民病院	中濃	郡上市	150		100		50		150		100	30	20		0	0	0	30	▲ 30	0	
2	市立美濃病院	中濃	美濃市	122		77	45			122		77	45			0	0	0	0	0	0	
3	国保白鳥病院	中濃	郡上市	60		60				60			60			0	0	▲ 60	60	0	0	
4	中濃厚生病院	中濃	関市	489	119	326	44			489	119	332	44			0	0	6	0	0	0	
5	木沢記念病院	中濃	美濃加茂市	452	182	228	42			502	182	228	92			50	0	0	50	0	0	
6	可児とうのう病院	中濃	可児市	250	6	156	53		35	250	6	153	88		3	0	0	▲ 3	35	0	▲ 32	②のその他の3床はドック床
7	関中央病院	中濃	関市	150		50	50	50		150		50	50	50		0	0	0	0	0	0	②の4機能の内訳は「未定」と回答。※資料上はH29年度病床機能報告結果を用いる
8	鷺見病院	中濃	郡上市	149		77	24	48		120 (100~120)		60 (40~60)	20	40		▲ 29	0	▲ 17	▲ 4	▲ 8	0	②の急性期の回答は「40~60」であるが、集計上、最大値の60を記載。※それに伴い、合計も「100~120」となる。
9	白川病院	中濃	白川町	124		59		65		124		59		65		0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる
10	藤掛病院	中濃	可児市	120		60		60		99		44	10	45		▲ 21	0	▲ 16	10	▲ 15	0	
11	桃井病院	中濃	御嵩町	75		27		48		75		27		48		0	0	0	0	0	0	
12	八幡病院	中濃	郡上市	71		44		27		71		44		27		0	0	0	0	0	0	
13	野尻整形外科	中濃	美濃加茂市	19		19				19		19				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考					
				合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 (休棟 等)	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 (休棟・ 廃止等)	合計	高度 急性期	急性期		回復期	慢性期	その他 (休棟 等)		
14	ローズベルクリニック	中濃	可児市	19		19					19		19					0	0	0	0	0	0	
15	国保和良診療所	中濃	郡上市	8		8					8		8					0	0	0	0	0	0	
16	岩永耳鼻咽喉科	中濃	美濃加茂市	6		6					6		6					0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
17	東白川村国保診療所	中濃	東白川村	4				4			0							▲4	0	0	0	▲4	0	無床化
参考資料3-1【小計】				2,268	307	1,316	258	352	35	2,264	307	1,226	439	295	3	▲4	0	▲90	181	▲57	▲32	※精査中		

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
1	郡上市民病院	中濃	<p>病院の理念:地域で信頼され心が癒される病院を目指します。 診療実績:入院料 一般病棟 急性期一般入院料5 療養病棟 療養病棟入院料2 平均在院日数 一般病棟 13.2日 療養病棟 85.5日 病床稼働率 一般病棟 85.1% 療養病棟 80.1% 職員数:165名(正職) 108名(非常勤職員)※7/1現在 ・郡上地域において中心的な役割を担う医療機関として救急医療や急性期、慢性期病床機能に対応している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化が進む中、医療需要の変化や医療圏における医療供給体制の変化に対応するため、病床機能の一部を回復期病棟へ転換することを検討しているが、施設基準を満たす人材を確保できていない。 ・経常収支比率が100%を大きく下回っており、経営基盤が脆弱である。
2	市立美濃病院	中濃		
3	国保白鳥病院	中濃	<p>理念:地域に住むすべての人が その人らしく健康で幸せに 暮らせるお手伝いをします 実績(平成29年度):届け出区分 10対1入院基本料(内32床 地域包括ケア入院管理料2)、平均在院日数 17.5日、病床稼働率 67.0% 職員数:医師10.8人、看護師50.5人、その他専門職28.2人、事務職員他13.3人 特徴:現在は4機能のうち急性期が中心ではあるが地域包括ケア病床導入も含め在宅復帰、在宅支援の回復期機能にも取り組み始めている 他機関との連携:郡上市、白川村、高山市荘川町からなる県北西部地域の地域医療を支えるために、基礎自治体の枠組みを超えて各医療機関が広域的に緩やかなネットワークを構築して医療の相互支援による取り組みを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療需要の減少が見込まれること、市内病院との機能の一部重複があることから、現状の機能を変更していく検討が必要 ・地域で不足している、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関の整備に向けて当院の役割の再検討が必要 ・県北西部地域の安定的医療供給を目指して、医療連携の更なる基盤強化が必要
4	中濃厚生病院	中濃	<p>中濃圏域(長良川水系)の基幹病院として5疾病・5事業の中心的な役割を担うべく施設、設備等の充実を図り近隣医療機関との連携も密にし、当該圏域の医療提供体制を維持しております。 救命救急センターを併設し脳卒中、急性心筋梗塞等の救急医療体制の充実を図っております。 また、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を開設し高度急性期から慢性期まで切れ目のない医療を提供しております。(詳細は別添「2025プラン」参照)</p>	<p>当圏域内には在宅復帰に向けた医療やリハビリテーション機能を提供する回復期病床が不足しており、回復期機能の充実について、他医療機関と協議検討する必要がある。 不足している産婦人科、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、救急科、放射線治療科、心臓血管外科等の専門医を確保する必要があります。 地域医療の充実を図るため、地域がん診療連携拠点病院ならびに地域医療支援病院の指定に向け取り組む必要がある。(詳細は別添「2025プラン」参照)</p>

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
1	郡上市民病院	中濃	病床機能の一部を包括ケア病床に転換することを計画している。時期、規模については、施設基準を満たす職員確保が出来ていない為、未定である。	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんが安心して療養生活を送れるよう、病診、病病連携、医療福祉（訪問看護、介護施設）との連携強化を図り、診療、入転院、救急対応を担う。 	
2	市立美濃病院	中濃			
3	国保白鳥病院	中濃	2025年までには急性期機能中心から地域包括ケア病床を中心とした回復期機能中心へ転換予定	<ul style="list-style-type: none"> 地域の現状を考慮し、急性期機能の一部を担う必要があるが、ポストアキュート、サブアキュートを支え在宅へのつなぎあるいは在宅支援のための入院機能を持ちながら、外来・在宅を中心とした医療を展開し、保健介護との連携も継続しながら、市民の広義の健康づくりを支援していく 県北西部地域のへき地医療を安定的に支えるためにその基盤強化と連携の充実を図る 	
4	中濃厚生病院	中濃		<ul style="list-style-type: none"> ②紹介・逆紹介、医療機器の共同利用を推進するとともに他医療機関の医師・スタッフとの顔の見える関係を構築し、地域医療連携を推進します。 ③地域医療包括ケアセンターが中心となってかかりつけ医や介護事業所など多機関、多職種との連携を強化し、医療から介護まで切れ目のない在宅患者等の支援に取り組み、地域包括ケアシステムの質的向上に向け一役を担います。 ④認知症対策、嚥下機能傷害対策等を継続して行い高齢化社会への対策に取り組みます。 ⑤検診事業の拡充により精査・加療に対し早期介入を行い重症化予防に努めます。（詳細は別添「2025プラン」参照） 	

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
5	木沢記念病院	中濃	<p>当院は中濃地域の中核病院として、高度・急性期医療の提供を中心に、24時間体制で住民の生命と健康の保持に努めています。PET-CTやトモセラピー、ダ・ヴィンチ、320列CTスキャンなどの最先端の高度医療機器をいち早く導入するとともに、地域の病院・診療所等との連携を図るなど、地域医療全体のレベルアップに取り組んでいます。</p> <p>2003年に臨床研修病院、2005年に地域がん診療連携拠点病院、2008年に社会医療法人、地域医療支援病院として指定・承認を受けるとともに、独立行政法人自動車事故対策機構より中部療護センターの運営受託や指定管理者として多治見市民病院を運営するなど、公的医療の一翼を担っています。また、1999年に岐阜県で初めて日本医療機能評価機構の認定病院となった以降、認定を3度更新しているほか、JCEP(卒後臨床研修評価機構)、JMIP(外国人患者受入れ医療機関療養機関)の認定を受けています。</p> <p>また、365日24時間体制で断らない救急を実践し、年間約4,000件の救急車を受け入れ、加茂・可児地域の救急医療の充実にも努めています。地域災害拠点病院としては、東日本大震災や熊本地震など大規模災害の被災地へ災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣実績があります。</p> <p>さらに、日々の診療活動を支えるため、医師・看護師等の医療スタッフの確保にも努めており、臨床研修病院として医師の育成を図るほか、7:1看護配置体制の充実等のため、看護職員を増員するとともに、職員が働きながら安心して子育てできる環境づくりのため、2007年には院内保育園「あじさい子育て支援センター」を開設しました。</p> <p>このような取組のほか、現在、美濃加茂市蜂屋地区への病院の新築移転構想に着手しており、2022年度の運用開始を目指しています。新病院を拠点に美濃加茂市と連携した「美濃加茂メディカルシティ構想」を具現化し最新の医療機能を整備することで、地域の健康福祉の中心的な役割を担い、安心なまちづくりに貢献したいと考えています。</p>	<p>・人材の確保と育成について 中濃圏域の急性期医療を担う中心的な病院として、医師、看護師、薬剤師等の継続的な人材の確保と養成が課題です。医師については、大学医局との関係を維持し、一方で初期、後期研修医の養成を行うことになり、医師の働き方改革にに応じた負担軽減の立場から一層の充実が必要です。また、多職種によるチーム医療の実施を目指した看護師、薬剤師等の専門職の柔軟な配置と、キャリア開発プランの確立による段階的かつ計画的な育成が課題です。</p> <p>・施設としての環境整備について 現在の施設は、一部に未耐震構造の棟があり、これを解消する必要があります。入院療養環境では空床確保が困難なケースも発生していることから、急性期を担う増床が必要です。また、急性期の治療から連携した回復期病床についてはリハビリ機能を有した病床の増床が必要です。さらに、医療看護必要度の高い慢性期患者の病床確保も課題です。</p> <p>合わせて、手術待ちを発生させないための手術室の確保、がん患者増に対応した外来化学療法室の拡充、今後増加すると思われる専門外来診療確保の確保、狭隘な環境にある薬剤部、検査部等の整備のほか、一層増加する救急患者対応の救急室とヘリポートの整備、加えて広域災害発生時の患者収容を想定した環境の整備も課題です。これらの課題は、現在進行している新病院の新築移転を契機に達成していくことができると判断しています。</p> <p>・急性期病院としての病院機能の整備として 人口の減少、高齢化の進展が予測され、医療圏の医療需要の減少も見込まれます。ただし、最新の診断機器の整備や医療技術を導入できる病院に限られていくことから、急性期病院としての体制を維持して、これらの役目を担うことが必要です。</p> <p>また、特殊な検査や特定の診療機能については、中濃圏域以外の広範囲から紹介患者が流入すると想定されます。疾患別の治療体制の整備として診療分野のセンター化を進めて受け入れ体制を整備することが必要です。</p> <p>救急患者の受入については増加傾向にあり、年間5,000人以上の患者を受け入れられる体制が必要です。合わせて、重症者の集中治療管理、緊急手術に対応できる整備も求められています。</p> <p>・連携機能の強化として 地域医療支援病院として紹介患者の受入に努めていますが、紹介率の更なる向上が課題です。また、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関との更なる連携強化が必要です。</p>
6	可児とうのう病院	中濃	<p>医師不足の課題は、例外ではなく病床稼働率が60%程度と低い水準となっているため、患者数の増加は、健全な経営に向けた一番の課題となっている。</p> <p>病床の機能区分状況を見ると、平成28年度の「地域医療構想策定支援ツール」を用いた実績が、高度急性期10%、急性期29%、回復期41%、慢性期20%となっている。これは前述の中濃医療圏における「病院報告に基づく医療需要」とほぼ同様の構成となっており、当院の位置する可児市における高齢化率の高さや、地域における回復期機能に対するニーズの高さを物語っている。</p>	<p>高度急性期から、回復期、在宅まで幅広くカバーする当院であるが、構想区域の課題と同様に医師不足は例外でない。</p> <p>特に常勤医師が退職となった小児科や脳神経外科の疾患については、入院の受入が困難な状態が続いている。</p> <p>また、老人保健施設や在宅介護支援センター等の介護施設を運営する当院においては、医療従事者の不足だけでなく、社会福祉士や介護士の不足も課題として認識している。</p> <p>今後増加する介護サービスのニーズに対応できるよう、介護職員の人員確保、教育にも力を入れていく必要がある。</p>
7	関中央病院	中濃		
8	鷺見病院	中濃	<p>「医療の原点は救急医療であり、全ての人が平等にその医療の恩恵を受けなければならない」という開設当初の理念のもと、第二次救急指定病院として24時間365日の救急医療体制を整えている。</p> <p>・届出入院基本料 10:1 平均在院日数18.0～19.0、病床稼働率75%前後</p>	<p>・施設が老朽化し耐震基準を満たせない施設が一部にあるため、早急に建て替えが必要となっている。</p> <p>・看護師が高齢化しているにもかかわらず、若い看護師を補充できない。</p> <p>・地域の人口減少が顕著で、外来患者数が右肩さがりとなっている。</p>

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
5	木沢記念病院	中濃		<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関から期待されている役割 救急医療、がん診療、脳疾患、心疾患、消化器疾患、腎疾患、糖尿病、小児・産婦人科疾患、外科疾患、整形外科疾患、泌尿器疾患、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚疾患は急性期医療を主とした高度な専門医療として維持。また、回復期リハについても急性期医療からの連携対応として維持していきます。その他、慢性期疾患、在宅、介護療養は地域の医療機関、施設との連携。 がん診療連携拠点病院としての役割 2025年に向けて、がん患者増を見込み、がん診療連携拠点病院としての診療体制を強化します。また、がんゲノム診断に代表されるような新しい医療の導入、緩和ケア診療体制の充実を図っていきます。 救急医療の体制強化 地域の要望が強い、24時間、365日、断らない救急診療体制の強化を図ります。また、高度な緊急手術数の増加が見込まれることから、手術室の整備と集中治療室の体制を強化します。 小児・産婦人科医療の強化 地域から要望の強い、小児入院医療の体制の充実と周産期医療の充実を目指し体制を強化します。 災害拠点病院としての役割 広域災害発生時の患者受入体制の強化、特に地震、台風等の災害発生時に災害医療を行う病院などの後方医療機関を支援する機能を強化します。また、自院への重症・重篤な傷病者の受入および広域医療搬送の支援、局地災害時の災害派遣チーム(DMATチーム)の派遣体制を維持します。 地域医療連携機能 医療機能分化の進展による急性期医療後の患者の受皿となる病院・介護施設等や訪問看護ステーションとの連携を推進します。そのために、連携機能推進の窓口となる地域連携室の体制を強化します。 疾病予防と健康管理に関する役割 生活習慣病の予防対策として、健診管理センター部門による住民健診を充実、特にがん検診の受入体制を強化します。また、健康増進施設と連携して疾病予防に繋げる役割を担います。 高齢化による患者構成に対する対応 各種のがん、救急、脳疾患、認知症、生活習慣病等、高齢者の患者が増加することが予測されることから、疾病予防、早期発見、保健指導に対応します。 行政機関と連携した健康増進機能への対応 地域の中心的な病院として行政機関と連携した体制を強化します。各種の健診事業の連携協力、健康増進活動の一環としての地域住民と、地域の医療関係者に対する教育・研修の役割を担います。 	
6	可児とうのう病院	中濃		<p>当院は高度急性期から慢性期まで幅広く受け持っており、現在の病床構成を継続することが地域のニーズに応える最善策であると考えています。</p> <p>ただし、常勤医師の退職による診療科の縮小等の課題も抱えているため、高度急性期や診療科を持たない急性期疾患については、医療圏で急性期を中心的に担う病院との連携を強化し、回復期機能を担う必要もある。</p>	
7	関中央病院	中濃			
8	鷺見病院	中濃	<ul style="list-style-type: none"> 近隣病院と棲み分けを明確にして、地域の急性期医療を全て受け入れる体制を整える。病床数は新病院の建替えを機に検討するが、100床～120床程度になると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新病院建替えを機に病床数を減らし、医師不足、看護師不足にも対応できる体制を整える。 	<p>【新設】 皮膚科 【理由】 ・地域での需要があり、専門医の確保が可能。</p>

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
9	白川病院	中濃		1. 地域急性期病院の充実 ①医師確保 2年後1名入職予定(消化器外科) ②整形、循環器、消化器の常勤化 ③小児科週1日の非常勤化 2. 夜勤看護師 夜勤3名体制の維持、夜勤専従 3. 介護士補充
10	藤掛病院	中濃	・診療実績 地域一般入院基本料 1 60床 平均在院日数 18日程 病床稼働率 90%程 療養病棟入院料 2 35床 介護療養型医療施設 療養機能強化型A 25床 病床稼働率 91%程	・病床稼働率は維持できているが、今後の超高齢化社会に向け、病床機能の変更が必要。 回復期、慢性期病床の整備が必要。 ・職員の確保(医師、専門職)も困難であり、病院の規模についても検討が必要。
11	桃井病院	中濃	○診療実績:地域一般入院基本料2=27床 (平均在院日数=18日、稼働率=86.5%) 療養病棟入院基本料1=48床 (平均在院日数=121日、稼働率=91.3%) ○職員数:医師1名(9名)、看護師17名(8名)、准看護師18名(6名) 薬剤師1名、放射線技師1名、臨床検査技師(1名) 管理栄養士1名、療法士9名(1名)、介護職員21名(2名) ○自院特徴:入院と在宅の連携を強化し、医師2名で訪問診療。 24時間対応の訪問看護ステーション開設。 施設系ない為デイケアにより退院後のフォローアップに繋げる。 急性期と慢性期のミックス型により多岐にわたる疾患又は状態 の患者受け入れ可。 ○他院連携:夜間帯の救急受け入れが弱い為、近隣の急性期病院が負担大。 代わりに急性期病院からの転院依頼は積極的に取り組む。 *「職員数」のうち()内はパート人数	○常勤医師の絶対的不足により外来診療、病棟回診などにおいて主治医制が適用できず、患者の立場からすると診察の度に医師が変わることにより診察の見解に違いが出てしまう。 ○中濃圏域では療養病床は少なく、当院も満床にほぼ近い日も多々あるが、急性疾患を脱するも経過観察も含め退院までに行き着かない場合の患者のためや急性期病院からの患者受け入れ要請のために2~3床程度の療養病床を確保するが、昨年のインフルエンザ蔓延や今年の異常気象など想定外の事態により満床が続くと地域連携も含め、ペットコントロールに日々苦慮。 ○可見郡において唯一の病院であるが故に急性期病床の確保は止む無し。 当院の平均在院日数は24日以内であるが、高齢者は疾患をいくつも抱えており、治癒能力も低い為急性期病床での治療完結による退院は少ない。慢性期が満床により転床できずやむを得ず退院し、在宅サービスでフォローすることもしばしばある。 ○可見郡には通所リハビリが当院以外になく他地域の事業所を利用。 該当者の方々から当院での利用を希望される方が多いとケアマネなどからご意見聞くも人員で特に介護職の雇用に大変苦慮している状況。職員確保困難なため看護職の協力にて何とかしのいでいるのが現状。介護施設のない当院にとって退院後のフォローアップに通所リハビリは欠かせないため今後、介護職員の確保及び利用定員の拡大を目指す。
12	八幡病院	中濃	地域一般入院病棟と療養病棟のケアミックス 居宅介護支援、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等の介護施設を持つ医療・介護複合病院	少子高齢化・人口減少の進展等により受診患者数の減少 医師、看護師等の人員確保が困難 看護師の人員及び医療区分2、3の患者の割合における療養病棟の今後の方向
13	野尻整形外科	中濃		
14	ローズベルクリニック	中濃	ローリスク分娩取り扱い施設、及び妊娠中から産後、児の育成にかけて切れ目ない地域医療を提供することを目指しています。	一方で、中絶、流産、死産、新生児異常などの対応も行う必要があり、狭い施設の中で、経過に不安を抱える患者、不幸な転帰をたどった患者への配慮が十分に行えないことがあります。

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
9	白川病院	中濃			
10	藤掛病院	中濃	<ul style="list-style-type: none"> 急性期病床(一般病棟) 60床の内、10~15床を地域包括ケア病床(回復期)に変更予定。 療養病棟 60床(医療35床・介護25床)の内、30床~35床を介護医療院に転換を予定。転換時期は、平成32年4月までには。 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期よりは回復期、慢性期機能の一翼を担う。 訪問診療、訪問看護等、在宅医療に力を注げるよう検討。 	
11	桃井病院	中濃		<ul style="list-style-type: none"> 木沢記念病院、県立多治見病院など救急医療に力を注ぐ医療機関は満床時に救急受入れの支障となる実情から後方支援として入院受け入れ態勢の整備を整えることで地域医療の貢献の一環となる。 在宅での看取りも含めて在宅医療体制の構築。在宅医療に携わる医師の確保と訪問看護ステーションの強化型への移行並びに病院側の在宅での緊急時対応の充実など。 	
12	八幡病院	中濃	今後の医療・介護の情勢により検討を進めていく必要があるが、現在のところ転換予定は未定	地域に密着した医療・介護施設	
13	野尻整形外科	中濃			
14	ローズベルクリニック	中濃		引き続き、ローリスク分娩取り扱い施設、及び妊娠中から産後、児の成育にかけて切れ目ない地域医療を提供することを目指しています。	

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
15	国保和良診療所	中濃	平成30年4月より一般病床(8床)を休止中。 看護師不足(郡上市全体)。 和良診療所の診療圏は、入院施設よりも介護施設の必要性が高く、入院の夜勤看護師を併設老健の夜勤に対応する事とした為、入院夜勤看護師を確保する事が出来ず病床を休止した。	郡上市全体の看護師不足。
16	岩永耳鼻咽喉科	中濃		
17	東白川村国保診療所	中濃	・外来、在宅診療、一時救急、地域包括ケア等、地域の多職種と連携し、行っている。後方支援病院との連携も良好である。	・医師、コメディカル職員の確保。

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
15	国保和良診療所	中濃			
16	岩永耳鼻咽喉科	中濃		現在9月末地域に密着した医療を行う	
17	東白川村国保診療所	中濃	無床		